



19 北都計第 10 号  
平成 19 年 5 月 8 日

国土交通省  
道路局長 宮田年耕 様

北見市長 神田 孝



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について（回答）

時下、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃より北見市の道路行政につきまして、深いご理解とご配慮を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、平成 19 年 4 月 2 日付国道企第 114 号で依頼のありました標題の件につきまして別添のとおり回答致しますので、よろしくお取り計らい下さいますようよろしくお願い致します。

（都市建設部 都市計画課 都市企画担当）

## 今後の道路政策や道路の整備・管理についての意見―北見市

### 1 高速道路ネットワークの形成

北海道は国土の22.1%を占める広大な面積を有しており、その中に約562万人の人々が暮らしています。

北海道の人口の33.4%が札幌市の人口であり、旭川市、函館市、帯広市、釧路市、北見市等の人口10万人以上の中核的な都市が分散しています。

北海道の各圏域がそれぞれの地域特性を活かしながら発展していくことが、北海道全体の魅力を高め観光や産業の振興に寄与するものと考えます。オホーツク地域は全道一の漁獲量を誇り、農業においても十勝に次いで道内2番目の産出額となっており、食料王国北海道を支える地域であるといえます。これらの新鮮な産品は陸路で釧路や苫小牧等の主要港湾に運ばれ、道外に輸送されています。

また、観光面においてもこの地域は世界自然遺産の知床をはじめ、阿寒・摩周等の観光地を有していますが、地域の交通事情としては鉄道が石北線と釧網線しかないため、交通の主体は道路となっておりますが、地域面積が広域であるため、移動時間の長さが来訪者にとって大きな負担となっております。

特に、オホーツク地域の空の玄関である女満別空港は、年間100万人を超える利用客数がある重要な交通結節点であることから、地域の中核都市である北見市との高速ネットワークは急務であり、観光及び企業やコンベンションの誘致等に寄与するものとして地元経済界も大きな期待をしております。

### 2 地域間幹線道路網の整備

北見市は平成18年3月に端野町、常呂町、留辺蘂町と合併し新しい北見市となりました。

合併により面積が1427km<sup>2</sup>と北海道で1番、全国でも4番目という大きなまちとなりました。

この広大な新北見市には常呂自治区の原生花園や留辺蘂自治区のおんねゆ温泉等といった魅力的な観光資源が数多くあり、国内外の多くの人に訪れて頂きたいと考えています。

広大な地域内における移動時間を短縮し、利用可能時間を十分確保するためには、北見市内の各自治区を連絡する地域間幹線道路の整備が必要と考えます。

また、この地域の豊かな自然環境が将来にわたって持続されるためには、各種の環境施策を継続的に実施していく必要があると考えておりますが、高

速道路及び地域間幹線道路の整備による自動車交通の円滑化による二酸化炭素排出量の縮減等も重要な取り組みのひとつと考えています。

### 3 冬期間における交通安全と定時性の確保

北海道の魅力のひとつに明瞭な四季の変化が挙げられますが、北海道の道路整備の歴史は冬期間の厳しい気候の克服の歴史でもあります。

オホーツク地域の周辺は標高1000m級の石北峠をはじめとする急峻な地形で囲まれており、冬期間の自動車の走行には危険が伴うばかりでなく、地吹雪による視界不良や積雪による通行止めなどに遭遇してしまうことも多く、目的地への到着が遅れることや目的地に行くことを断念せざるを得ない場合もあります。そのため、防雪柵やシェルターの設置等、冬期間の交通安全と定時性の確保が図られるような道路整備が必要と考えます。

それによって、冬期間の物流やビジネス・観光における移動の確実性が高まり、北海道ならではの冬を楽しむゆとりと魅力が創出されると思います。

### 4 地域の住民の生命を守り暮らしを支える幹線道路の整備

北見市はオホーツク地域の中核都市として、商業・文化・医療・教育等の面で中心となっております。オホーツク地域内には無医地区が点在しており、北見市への患者搬送が多いため、地域を結ぶ幹線道路は生命を守るライフラインとなっており、移動時間短縮のための整備が急務となっております。

また、緊急搬送だけでなく市内外から鉄道やバスで通院する患者も多いため、北見市では平成15年度に北見市交通バリアフリー基本構想を策定し、市中心部における歩行者空間のバリアフリー化を進めております。

しかし、積雪寒冷地である本市においては冬期間の路面凍結などにより歩行者が転倒し、骨折等の大怪我をする場合もあることから冬期間の歩道の路面对策も大きな課題となっており、その対策についての国の支援が必要と考えます。

さらに、近年は異常気象による大雨災害が多くなっており、災害時には物資の輸送や人的応援のため各自治区間を移動する機会が増えていますが、連絡路が通行止めになってしまうことも多く、迅速な対応に支障があるため、市域を連絡する幹線道路の整備による災害に強い道路網の形成が急務となっております。

そして、交通安全の確保も重要であると考えております。特にオホーツク圏の国道では、正面衝突事故の発生率が全道平均より高く4割以上の方が正面衝突でなくなっているというデータがあります。そのため、死傷事故を未然に防ぐ対策や事故多発箇所の改良等、事故減少に向けた対策が必要と考え

ます。

このほか、道路空間は通行機能や沿道利用機能ばかりでなく、都市環境保全機能、人が集う生活空間としての機能等を有していますが、人々の生活の多様化に伴い、お祭り等のイベントや高校生の塾からの帰宅、24時間営業の店舗の利用等、夜間の利活用も考慮した整備が求められております。今後の歩道やポケット広場の整備にあたっては、照明灯の設置やイベント時に使用可能な電源の設置等、利用目的にあわせた細やかな整備が望まれます。

## 5 中心市街地のにぎわいを演出しまちの顔となる街路空間の整備

また、オホーツク地域の中核である北見市の拠点性を高めるためには、市街地を東西に貫通する国道39号における電線類の地中化をはじめとする市内幹線道路の景観整備により質の高い快適な歩行者空間を創出する必要があります。

特に中心市街地においては多くの市民や地域住民が訪れるよう、周辺住宅地や近隣市町村からアクセスしやすい都心構造とするため、面的な道路網整備および駐車場や路線バスなどとの交通結節機能の再編が必要な状況となっており、これらの事業を実現するために道路特定財源が幅広く活用されることを望みます。

## 6 地域の個性が感じられる道づくり

オホーツクの道路は豊かな自然に囲まれた場所、玉ねぎや小麦、馬鈴薯等の畑が広がる田園風景、開放感あふれる海岸沿いの風景等などを楽しむことができます。この雄大な自然や産業的特徴等を背景とした風景は地域の宝であると考えています。このような地域資源を積極的にPRし、地域外の多くの人にこの地域の素晴らしさを体験してもらうには、景観と調和した道路づくりと地域資源を効率的に連携した道路ネットワークの形成が不可欠であり、今後は矢羽根や防雪柵・案内標識の設置にあたっては景観に配慮したものとすることや「道の駅」等における地域情報発信機能のさらなる充実が必要と考えます。

## 7 効率化を進める上で重視すべきこと

### ①道路の大規模改修および除雪に対する国の支援措置について

北見市においては都市内幹線道路網の整備が進み、維持管理の必要な道路や橋梁が非常に多くなっています。

近年、早期整備された施設の老朽化が目立ち始めており、今後計画的な

維持補修が求められておりますが、これらの施設の維持補修には多額の事業費が必要となっております。

また、北見市は2004年にとてつもない大雪により、市道はもちろん、国道や道道までもが通行できなくなり、完全に陸の孤島となってしまう大災害が発生しました。

これを契機とし、市の除雪体制をGPSの活用等により強化しましたが、財政事情の厳しい本市において除雪費の負担は非常に大きなものとなっております。

今後、市道や橋梁の大規模な維持補修や除雪等の維持管理に対しても国の支援が講じられるよう、強く望みます。

## ②高速道路の整備について

高速道路の整備については、事業効果の早期発現を図るため、暫定2車線での施工等、工事期間の短縮や完成区間の部分供用等を進める必要があると考えます。

また、ETCの普及等による管理コストの縮減、高速料金の割引制度の拡充、低速な速度規制の見直し等により、高速道路の利用率向上に資する施策の実施を強く求めます。